

令和5年度学力検査問題

国語

注意

- 1 監督者の開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから10ページまであります。
- 3 解答は、全て解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 4 解答用紙の※印の欄には、何も記入しないでください。
- 5 監督者の終了の合図で筆記用具を置き、解答面を下に向け、広げて机の上に置いてください。
- 6 解答用紙だけを提出し、問題冊子は持ち帰ってください。

(1) 次の【文章】を読んで、後の各問に答えよ。句読点等は字数として数えること。

【文章】

「時間どろぼう」という言葉を記憶している読者は多いだろう。ドイツの作家ミヒャエル・エンデ作『モモ』に出てくる言葉である。時間貯蓄銀行から派遣された灰色の男たちによって、人々の時間が盗まれていく。それをモモという少女が活躍してとりもどす。そのために彼女がとった手段は、ただ相手に会って話を聞くことだった。このファンタジーは現代の日本で、ますます重要な意味をもちつつあるのではないだろうか。

時間とは記憶によって紡がれるものである。かつて距離は時間の関数だった。だから、遠い距離を旅した記憶は、かかった時間で表現された。「七日も歩いて着いた国」といえば、ずいぶん遠いところへ旅をしたことになった。その間に出会った多くの景色や人々は記憶のなかに時間の経過とともにならび、出発点と到着点を結ぶ物語となった。

しかし、今は違う。東京の人々にとって飛行機で行く沖縄は、バスで行く名古屋より近い。移動手段の発達によって、距離は時間では測れなくなった。

時間にとって代わったのは費用である。①()なり」ということわざは、もともと時間はお金と同じように貴重なものだから大切にしなければいけないという意味だった。ところが、次第に「時間は金で買えるもの」という意味に変わってきた。特急料金をはらえば、普通列車で行くより時間を短縮できる。速達郵便は普通郵便よりも料金が高いし、航空便は船便より費用がかさむ。同時に、距離も時間と同じように金に換算されて話題に上るようになった。

しかし、これは②大きな勘違いを生むものとなった。金は時間のように記憶によって蓄積できるものではない。本来、金は今ある可能性や価値を、劣化しない紙幣や硬貨に代えて、それを将来に担保する装置である。いわば時間を止めて、その価値や可能性が持続的であることを認める装置だ。しかし、実はその持続性や普遍性は危うい約束事や予測の上に成り立っている。今の価値が将来も変わることなく続くかもしれないが、もっと大きくなったり、ゼロになるかもしれない。リーマン・ショックに代表される近年の金融危機は、そのことを如実に物語っている。

時間には決して金に換算できない側面がある。たとえば、子どもが成長するには時間が必要だ。金をかければ、子どもの成長を物質的に豊かにできるかもしれないが、成長にかかる時間を短縮することはできない。そして、時間が紡ぎだす記憶を金に換算することもできないのだ。社会で生きていくための信頼を金で買えない理由がここにある。信頼は人々の間に生じた優しい記憶によって育てられ、維持されるからである。

③人々の信頼でつくられるネットワークを社会資本という。何か困った問題が起こったとき、ひとりでは解決できない事態が生じたとき、頼れる人々の輪が社会資本だ。それは互いに顔と顔を合わせ、時間をかけて話をするることによってつくられる。その時間は金では買えない。人々のために費やした社会的な時間が社会資本の元手になるのだ。

私はそれを、④野生のゴリラとの生活で学んだ。ゴリラはいつも仲間の顔が見える、まとまりのいい十頭前後の群れで暮らしている。顔を見つめ合い、しぐさや表情で互いに感情の動きや意図を的確に読む。人間の最もまとまりのよい集団のサイズも十～十五人で、共鳴集団と呼ばれている。サッカーやラグビーのチームのように、言葉を用いずに合図や動作で仲間の意図が読め、まとまって複雑な動きができる集団である。これも日常的に顔を合わせる関係によって築かれる。言葉のおかげで、人間はひと

りでいくつもの共鳴集団をつくることができた。でも、信頼関係をつくるには視覚や接触によるコミュニケーションに勝るものはなく、言葉はそれを補助するにすぎない。

人間が発する言葉は個性があり、声は身体と結びついている。だが、文字は言葉を身体から引き離し、劣化しない情報に変える。情報になれば、効率が重視されて金と相性がよくなる。現代の危機はその情報化を急激に拡大してしまったことにあると私は思う。本来、身体化されたコミュニケーションによって信頼関係をつくるために使ってきた時間を、今私たちは膨大な情報を読み、発信するために費やしている。フェイスブックやチャットを使って発信し、近況を報告し合う。それは確かに仲間と会って話す時間を節約しているのだが、果たしてその機能を代用できているのだろうか。

現代の私たちは、一日の大半をパソコンやスマホに向かって文字とつき合いながら過ごしている。もっと、人と顔を合わせ、話し、食べ、遊び、歌うことに使うべきなのではないだろうか。それこそが、モモがどろぼうたちからとりもどした時間だった。時間が金に換算される経済優先の社会ではなく、人々の確かな信頼にもとづく生きた時間をとりもどしたいと切に思う。

(山極寿一『ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」』による。一部改変)

(注) リーマン・ショック：二〇〇八年にアメリカの大手証券会社が経営破綻したことをきっかけに起こった世界金融危機のこと。

フェイスブック：登録された利用者同士が交流できるウェブサイトの会員制サービスの一つ。
チャット：コンピューターネットワーク上で、複数の人が同時に発信し、文字等による会話をすること。 スマホ：スマートフォンのこと。

問一 本文中に ①「(X)なり」とあるが、空欄(X)に入る最も適切な語句を、三字で書け。

問二 本文中の ②大きな勘違い について説明した次の 中の文の空欄アに入る最も適切な語句を、本文中から七字で採し、そのまま抜き出して書け。

紙幣や硬貨の価値は、将来も担保されるとは限らないのに、アがあると**ア**と思い込んでいること。

問三 本文中に ③人々の信頼 とあるが、書き手は、「信頼」をどのようなものと捉えているか。二十字以上、二十五字以内でまとめて書け。ただし、時間、記憶 という二つの語句を必ず使うこと。

問四 本文中に ④野生のゴリラ とあるが、野生のゴリラの例が本文中で果たす役割について説明した文として最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書け。

- 1 野生のゴリラとの生活を示して人間との違いを明確にすることで、人間が社会資本をつくった過程を説明する役割。
- 2 野生のゴリラの群れを通して人間同士の関係性を見つめることで、複数の共鳴集団をつくる危うさを伝える役割。
- 3 野生のゴリラから学んだことを示すことで、人間の言葉の発達について説明できるといふ主張を印象付ける役割。
- 4 野生のゴリラと人間の在り方を比較することで、社会における人間同士の関わりを考えさせる契機とする役割。

問五 本文中に『モモ』の話を引用することで、書き手が、現代の日本で必要だと示唆しているのはどのようなことか。二十五字以上、三十五字以内で考えて書け。

(2) 次は、【文章】を読んで、『モモ』という作品に興味をもった野村さんが読んだ【『モモ』の文章の一部】である。これを読んで、後の各問に答えよ。句読点等は字数として数えること。

【『モモ』の文章の一部】

小さなモモにできたこと、それはほかでもありません、あいての話を聞くことでした。なあんだ、そんなこと、とみなさんは言うでしょうね。話を聞くなんて、だれにだつてできるじゃないかって。

でもそれはまちがいです。ほんとうに聞くことのできる人は、めったにいないものです。そしてこのてんでモモは、それこそほかにはれないすばらしい才能をもっていたのです。

モモに話を聞いてもらっていると、きゆうに①まともな考えがうかんできます。モモがそういう考えをひきだすようなことを言ったり質問したりした、というわけではないのです。ただじつとすわつて、注意ぶかく聞いているだけです。②その大きな黒い目は、あいてをじつと見つめています。するとあいてには、じぶんのどこにそんなものがひそんでいたかとおどろくような考えが、すうつとうかびあがってくるのです。

モモに話を聞いてもらっていると、どうしてよいかわからずに思いまよっていた人は、きゆうにじぶんの意志がはっきりしてきます。ひっこみじあんの人には、きゆうに目のまえがひらけ、③勇気が出てきます。不幸な人、なやみのある人には、希望とあかるさがわいてきます。たとえば、こう考えている人がいたとします。おれの人生は失敗で、なんの意味もない、おれはなん千万もの人間のなかのケチなひとりで、死んだところでこわれたつぽとおんなじだ、べつのつぽがすぐにおれの場所をふさぐだけさ、生きていようと死んでしまおうと、どうつてちがいはありゃしない。この人がモモのところに出かけていって、その考えをうちあげたとします。するとしゃべっているうちに、ふしぎなことにじぶんがまちがっていたことがわかってくるのです。いや、おれはおれなんだ、世界じゅうの人間のなかで、おれという人間はひとりしかいない、だからおれはおれなりに、この世のなかでたいせつな者なんだ。

こういうふうにもモモは人の話が聞けたのです！

(ミヒヤエル・エンデ／大島かおり訳『モモ』による。一部改変)

問一 本文中に ①まともな考え とあるが、その具体的な例を本文中から一文で探し、初めの四字をそのまま抜き出して書け。

問二 本文中に ②その大きな黒い目は、あいてをじつと見つめています。 とあるが、「見つめています」という部分の文の働きと、次の1～4の 〓線を施した部分の文の働きが同じものを一つ選び、番号を書け。

- 1 今年も見事に咲いた、桜の花が。
- 2 彼はいつまでも追い続ける、壮大な夢を。
- 3 見つめた先に、一筋の光が差した。
- 4 やってみると、どんな困難も乗り越えられる。

問三 本文中の ③勇気 と同じ構成の熟語を、次の1～4から一つ選び、番号を書け。

- 1 朗報
- 2 往復
- 3 決意
- 4 尊敬

問四 本文中の ふしぎ の 〓線を施した部分に適切な漢字を当てるとき、 ぎ と同じ漢字を用いるものを、次の1～4から一つ選び、番号を書け。

- 1 講ぎを聴く。
- 2 ぎ問を解決する。
- 3 ぎ論を重ねる。
- 4 特ぎを伸ばす。

問五 次の【A】、【B】は、『モモ』を読んだ野村さんが、印象に残ったことを短冊たんざくに書いた文字である。野村さんが、文字を書き直したときに気を付けたこととして適当なものを、次の1～5から全て選び、番号を書け。

【A】最初に書いた文字

注意ぶかく聞く

【B】書き直した文字

注意ぶかく聞く

- 1 漢字を仮名よりも小さめに書くこと。
- 2 紙面の上下左右に余白を適度に取って書くこと。
- 3 直線的な点画で筆脈を意識して書くこと。
- 4 漢字の行書に調和する書き方で仮名を書くこと。
- 5 行の中心に文字の中心をそろえて書くこと。

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。句読点等は字数として数えること。

【ここまでのあらすじ】 仏像修復師である潔は、この仕事をしてもう十三年にもなるが、接着剤として修復に用いる漆にいまだにかぶれてしまう。潔が修復作業のため訪れた玄妙寺には、不空羅索観音像が本尊として安置されており、その仏像に、潔は強く惹きつけられた。

孤独が潔をいよいよ仏へ引きよせた。御魂は抜いてあるから、仏に功力はない。しかし解体され、手足とばらばらに横たえられた不空羅索の①面を見ていると、そこにはたしかに、ついこのあいだまで宿っていたなにかのぬくみを感じるのだ。人間の魂によく似たなにか。けれども遥かに強力で、永遠に損なわれることはない。

どんな仏像にでもそれがあるというわけではなかった。むしろそんな例はごく稀だ。ましてやこの不空羅索ほどの強烈な吸引力を前にしたのは初めてのことだった。

彫仏の巧拙。像容の美醜。木質の優劣。そんなものは問題ではなかった。芸術品としての価値からすれば、玄妙寺の不空羅索には見るべきものがない。恐らくは名もない一仏師が、ちよつとめずらしい仏を彫ってやろうと一念発起し、見よう見まねで不空羅索に挑んでみせたのだろう。計算不足のせいか全体のバランスが悪く、台座や光背にも手抜きが見てとれる。納衣の彫りかた一つをとつても青臭く、刀さばきの至るところに生硬さがうかがえる。にもかかわらず、この像には②それがあつた。

仏として人間に仰がれるに足るなにか。
仏として人間を慰むるに足るなにか。

——慈悲。

この仏にふさわしい形容を何日も思いあぐねた末、潔はこの二字に帰着した。格別に美しいわけではない。技巧に秀でていてでもない。けれどもこの仏は温かい。とこしえの慈しみをその目に、唇にたたえている。どうすればこんな面が彫れるのか？

恐らくは偶然だ。どんな仏師も一生に一度くらいは己を超えた面を彫る。けれどもそこで刀を置くことができずにさらなる手を

加え、なにもかもだいなしにしてしまう。しかし、この仏師は踏みとどまった。自らの手が成したとはどうも思えないなにかを宿らせた仏と向かいあう怖気に耐えぬいた。その恐るべき胆力に潔は感謝した。何百年も前に奇跡を起こした彼のおかげで、自分は今、この仏にこれほどまでに慰められている。

③感謝しながらも、しかし一方で猛然と嫉妬した。たいした腕もなく、儀軌にもうとく、真手の印相を誤るようなへまをやらかす仏師への羨望に苛まれた。恐らくは生涯パツとせず、歴史になんの名も残さずに消えた貧乏仏師。しかしなにはともあれ、彼はこのような仏像を、少なくとも一体はこの世に遺したのだ。

「俺にはそれができなかった」

いつの日からか、暗く湿った堂内でひとり、胴から上を横たえた不空羅索像に語りかけるのが潔の日課と化していた。

「俺には、魂を宿すに値する仏が、どうしても彫れなかった」

美大で彫仏を学んでいた当時をふりかえるたび、潔はそれこそ魂を抜かれた器のようになる。

大学での潔は優秀だった。彼が彫りあげた木像はいずれも高い評価を得た。巧みでなめらかな刀さばきは他学生の追隨を許さず、教師陣からも特別視されていた。どいつもこいつも騙されやがって……と、しかし、潔はほめられるたびに憤っていたのだ。

「俺はたしかに巧い。器用だ。見目のいい、つるつるの像を彫る。だが、それだけだ。俺だけは俺に騙されなかった」

新たな像に着手するたびに潔は懊惱し、完成させるたびに落胆した。その絶望の深さを知るのもまた自分だけだった。大学二年の秋、潔は突然、大学に退学届を提出した。仏像修復師として働く松浦の姿とある雑誌の記事で目にしたのは、失意の冬の只中

のことだ。

潔はただちに京都へ駆けつけた。両親に無断で大学をやめた彼は、いずれにしても勘当同然の身の上だった。

「これだ、と思った。俺は仏師にはなれない。なにかがどうしても足りない。しかし、修復師として仏像に携わることならできる」子供の頃から乗り物よりも怪獣よりも仏像に心惹かれた彼に残された、それが最後の砦だった。

「この手で仏像を彫れないのなら、どこかの誰かが彫った仏像をこの手で救いたい。劣化した木材。風化した彫刻。みじめな仏をこの手で原型の——いや、原型以上の美しい姿にしてやりたい」

仏師への道に挫折した自らのみじめさを、潔は知らずしらず眼前の仏に重ねている。

(注) 儀軌：仏教における、図像に関する規則。 真手：両手。
懊悩：悩み苦しむこと。 梵鐘：寺院で用いるつりがね。

印相：仏像の手と指で作る形。

美大：美術大学の略。

問一 本文中の①面と同じ意味の語句を、別の漢字一字で書け。

問二 本文中の②それの指すものとして最も適当な語句を、本文中から二字で探し、そのまま抜き出して書け。

問三 次の□中の文は、本文中の③感謝しながらも、しかし一方で猛然と嫉妬した□について、潔が何に感謝し、嫉妬したかをまとめたものである。□ア□に入る内容を本文中から六字で探し、そのまま抜き出して書け。また、□イ□に入る内容を、十字以上、十五字以内でまとめて書け。

目の前の仏像に慰められるのは、「名もない一仏師」が「ア」をもっていたおかげだと考えた潔は、その仏師に感謝しつつも、自分にはできなかった□イ□を偶然にも成し得たことに激しく嫉妬したと読み取れる。

問四 本文中に④罰当たりな錯覚とあるが、具体的にはどのようなことか。二十五字以上、三十五字以内で考えて書け。

問五 本文中に⑤漆にかぶれた肌のむず痒さを思いだし、血まみれになるまで搔きむしりたくなくなるのだとあるが、ここから読み取れる潔の気持ち、解答欄の下の「気持ち」という語句に続くように、二十五字以上、三十五字以内で考えて書け。

「俺が直してやる。どこのどいつよりも美しい像にしてやる。誰もが地面にひれ伏して拝まずにいられない最高の仏に……」

心からの哀れみをこめてつぶやくときだけ、潔はこの超越的存在を超越したかのような、④罰当たりな錯覚に酔いしれるのだ。「直してやる。俺が。完璧に。必ずこの手で……」

その錯覚は彼に言いしれぬ感動を与えた。時として彼は唇を震わせ、時として瞳に涙した。

憎悪すべきは鐘の音だった。どこかの誰かがいたずらに鐘を鳴らすたび、潔の感動は断ち切られる。そして⑤漆にかぶれた肌のむず痒さを思いだし、血まみれになるまで搔きむしりたくなくなるのだ。

(森絵都『鐘の音』による。一部改変)

三

次は、『莊子』という書物にある話【A】と、その現代語訳【B】である。これらを読んで、後の各問に答えよ。句読点等は字数として数えること。

【A】

莊周、家貧なり。①ゆゑに往きて粟を監河侯に貸る。監河侯曰く、諾。我将に邑金を得んとす。將に子に三百金を貸さんとす、可ならんか、と。莊周、忿然として色を作して曰く、周、昨来るとき、中道にして呼ぶ者有り。周、顧視すれば、車轍中に鮒魚有り。周、之に問ひて曰く、鮒魚来れ、子は何為る者ぞや、と。對へて曰く、我は東海の波臣なり。君豈に斗升の水有りて我を活かさんか、と。周曰く、諾。我且に南のかた呉越の王に遊ばんとす。西江の水を激して子を迎へん、可ならんか、と。鮒魚、②忿然として色を作して曰く、③吾は我が常与を失ひ、我、処る所無し。吾、斗升の水を得ば然も活きんのみ。君乃ち此を言ふ。曾ち早く我を枯魚の肆に索めんには如かず、と。

(注) 莊周：中国の戦国時代の思想家。 監河侯：河川の水利を監督する役人。

三百金：黄金三百斤。一斤は六〇〇グラムに当たる。 斗升：一斗は一升の十倍で、一八・〇三九リットルに当たる。

呉越：呉の国と越の国。

【B】

莊周は家が貧しく食糧に困っていた。そこで監河侯のところへ出かけてゆき食糧を借りようとした。すると監河侯が言った、「よろしいとも。私は近々、領地からの租税が手にはいるはずになっている。そうしたら三百金ほど貸してさしあげよう。それでよいかな。」と。これを聞くと、莊周はむっとして顔色を変えて、「言った、「私が昨日ここへ来る途中、道で私を呼びとめる者があった。あたりを見まわすと車輪の跡の水たまりに鮒魚がいた。私が『鮒よ、どうしたのかね。』とたずねた。私は東海の小臣です。どうか少しばかりの水で結構ですから、もってきて私を助けてください。」と答えて言った。私が『よろしいとも。私はこれから南方の呉越の王のところに行くところだ。蜀江の川水を押し流してお前を迎えてやろう。それでどうかね。』と言った。鮒はむっとした顔つきを言ったものです、『私はなくてはならない水を今失っているのです、いる場所がないのです。私はただ一斗か一升ほどの水さえ得られたら生きられるのです。それをあなたがそのように言われる。それなら、いつそさっさと乾物屋の店先にも行って私を見つけれられたらよろしかろう。』とね。」

(注) 乾物屋：乾した食品を売る店。

問一 【A】の①ゆゑに を、現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書け。

問二 【B】に I 言った、とあるが、この後の「」で示した部分には、『』の付いていない会話の部分が一箇所ある。その会話の部分と対応する箇所を【A】から探し、初めの三字をそのまま抜き出して書け。

問三 【A】に ②忿然として色を作して とあるが、どの提案を受けて「忿然として色を作し」たのか。【A】から十二字で探し、初めと終わりの三字をそのまま抜き出して書け。

問四 【A】の③吾は我が常与を失ひ、我、処る所無し という書き下し文になるように、解答欄の漢文の適当な箇所に、返り点を付けよ。

問五 次の□の中は、【A】、【B】を読んだ堤さんと小島さんと先生が、会話をしている場面である。

堤さん 【A】の「曾ち早く我を枯魚の肆に索めんには如かず」という鮒の言葉は、遠回しに言っているけれど、

【A】をもらわないと干からびてしまうという意味なのです。

小島さん なるほど。【A】では、「イ」を莊周に、「ウ」を鮒にそれぞれ置き換えて、例え話を進めています。

監河侯という職が水利を監督する仕事であることに関連して、鮒を用いる巧みな例えではないかと思えます。

先生 そうですね。『莊子』は、日本の古典にも大きな影響を与えています。【A】は、日本の古典『宇治拾遺物語』の中にも収められており、「後の千金の事」という題で話がまとめられています。

堤さん 【A】と「後の千金の事」とでは、内容に何か違いはあるのですか。

先生 例えや内容はほぼ同じですが、千金が入ったらさしあげようと監河侯が言うのと、鮒の例えの後に莊周が「今日の命、物食はずは生くべからず。後の千の金さらに益なし」と言ったことが付け加えられています。

小島さん 特に「後の千の金さらに益なし」を踏まえて考えると、鮒の例えでも莊周の逸話でも共通して言いたいことは、【E】ということだと分かりました。

先生 二人とも、例え話に着目して、【A】の内容について深く考えることができましたね。

(1) ア、イ、ウに入る語句として最も適当なものを、次の1～6からそれぞれ一つ選び、番号を書け。

- 1 莊周 2 監河侯 3 三百金 4 鮒魚 5 斗升の水 6 西江の水

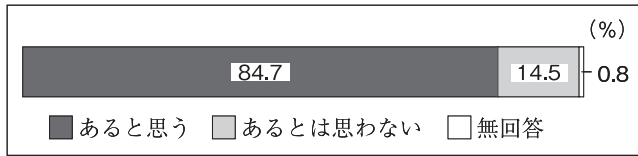
(2) エに入る内容を、十字以上、十五字以内で考えて書け。

四

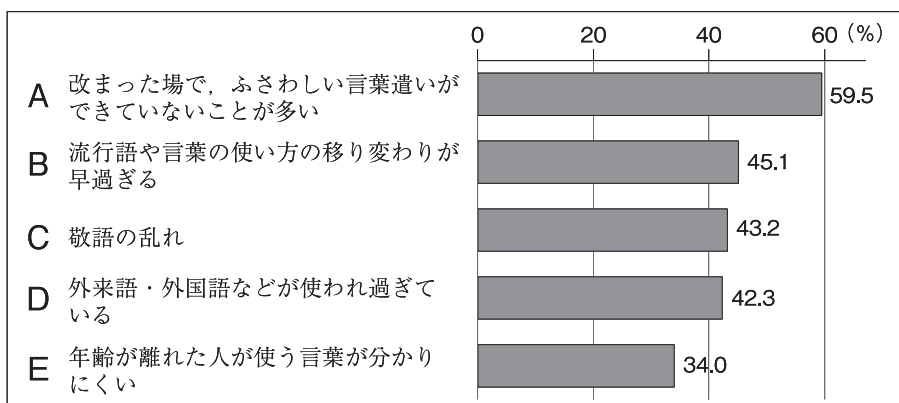
森さんの学級では、次の【資料】を基に、言葉や言葉の使い方について考えを述べることになった。あなたならどのような考えを述べるか。【資料】を読んで、後の条件1から条件5に従い、作文せよ。

【資料】

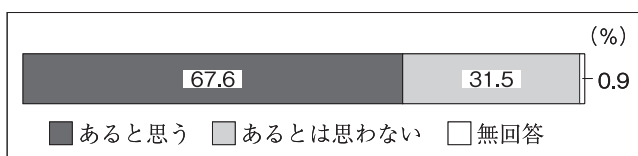
I あなたは、言葉や言葉の使い方について、社会全般で、課題があると思いますか。それとも、そうは思いませんか。(一つ回答)



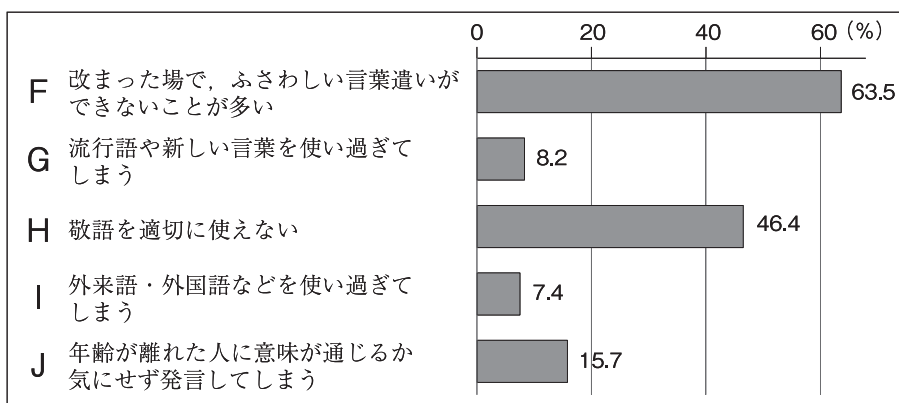
II (Iで「あると思う」と答えた人に対して) 社会全般で、どのような課題があると思いますか。(幾つでも回答)



III あなたは、言葉や言葉の使い方について、自分自身に、課題があると思いますか。それとも、そうは思いませんか。(一つ回答)



IV (IIIで「あると思う」と答えた人に対して) 自分自身に、どのような課題があると思いますか。(幾つでも回答)



(16歳以上を対象に文化庁が実施した「令和3年度『国語に関する世論調査』」の結果を基に作成)

条件1 文章は、二段落構成とし、十行以上、十二行以内で書くこと。

条件2 第一段落には、【資料】のⅡのA～Eの各項目から一つ、ⅣのF～Jの各項目から一つ選び（どれを選んででもかまわない）、選んだ二項目を比較して分かることと、それについてあなたが考えたことを書くこと。なお、選んだ二項目は、A～Jの記号で示すこと。

条件3 第二段落には、第一段落を踏まえ、自分自身の言葉や言葉の使い方についてあなたが大切だと考えることを一つ挙げ、自分の知識や経験と結び付けて書くこと。

条件4 題名と氏名は書かず、原稿用紙の正しい使い方に従って書くこと。

条件5 グラフの数値を原稿用紙に書く場合は、左の例にならうこと。

例

| | | | |
|---|---|---|---|
| 0 | ・ | 2 | % |
|---|---|---|---|

| | | | |
|----|---|---|---|
| 34 | ・ | 5 | % |
|----|---|---|---|